最優秀賞

平和な世界にするために

渋川市立渋川南小学校６年　　津久井　真唯

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、かなり年をとっています。顔もしわだらけだし、白髪もたくさんあります。歩くのも少しゆっくりになってきました。だけど、二人とも元気で今でも畑を耕して野菜などを育てています。おばあちゃんはおしゃべりです。私たちに会うと、ずっとしゃべっています。おじいちゃんはあまりしゃべらないけれど、お正月やおぼんに孫たちが集まるといつもにこにこ笑っています。そんな、おじいちゃんとおばあちゃんは八十才をこえています。戦後七十八年、私のおじいちゃんとおばあちゃんは、戦争を体験しているのです。だから私は、今年おぼんに遊びに行ったときに戦争の話を聞いてみました。日本が戦争をしていたときおじいちゃんとおばあちゃんは五、六才だったそうです。二人とも町に住んでいたわけではないけれど覚えていることもありました。おじいちゃんの家のとなりがお寺でそこに九州からきた兵隊さんが集まっていたこと。戦車も来ていたこと。空しゅうけいほうのこと。おじいちゃんのお姉ちゃんは、学校にいるときに空しゅうけいほうが鳴って、こわくてこわくて、泣きながら帰ってきたということ、前橋空しゅうのときには、真っ赤に燃えているのが見えたということ。おじいちゃんの家のうら山には、まだぼう空ごうが残っているそうです。今では、木に囲まれ、落ち葉にうもれていますが、お母さんが子どものときには、兄弟の遊び場だったそうです。

戦争中は、兵隊さんがたくさん亡くなりました。若い男の人たち、家でご飯を食べたり、学校に行き勉強をしたり、友達と話したりする、将来どんな仕事をしようかと悩んで迷って夢を見る、私たちが当たり前にできることは、当時の若者はできなかったのです。

「親より先に子どもが死んでしまうのは、とてもつらいこと。」

というのを聞いたことがあります。兵隊さんが戦死すれば、その親が悲しむのです。戦争は、たくさんの親たちもつらい思いをしました。また、小さな子を残して亡くなった人もいます。残された子どもたちは、お父さんにだっこしてもらうこと、おしゃべりをすること、いっしょに遊びにいくこともできません。

さらに、戦地に行かなくても、ぎせいになった人たちがいます。空しゅうがあったり、原ばくが落とされたり、食べ物がなくて空腹でなくなった人もいます。

私のおじいちゃんやおばあちゃんは今でも元気です。でも、もし二人が戦争で亡くなっていたら、私はこの世にいません。本当ならつながっていくはずの命を、そこで止めてしまうのが戦争なのです。人間は生まれてきたのならば、戦争や争いで死ぬべきではなく、寿命をむかえるまで楽しく、くいなく、人生を歩んでいけるのが一番の幸せなのだと思います。

優秀賞

「一枚の写真を見て」

渋川市立豊秋小学校６年　小林　愛里紗

”平和”という文字を辞書で引いてみた。「戦争やもめ事がなく隠やかな様子…」と書いてありました。平和な世界は、おたがいが思いやりの心を持ち努力の積み重ねの上に築かれるものと私は信じています。

私が平和だなと感じる時は、辞書に書いてある”戦争がない”というよりは、日常の生活の中で感じる事が多い。家族や友達など親しい人と楽しく話している時や遊びに熱中している時、美味しいご飯を食べている時に、”あぁ平和だな”と感じる。母には、「のん気だね。」と笑われる。

だけど、私達はのん気にしていられない多くの事をしっかり勉強しなくてはならない。

一九四五年八月六日に広島、九日には長崎に原子爆弾が投下されました。私は、今まで戦争についてあまり勉強してこなかったので日本は何の罪もないのに外国から原爆を投下された被害を受けた国だと思っていました。しかし日本も戦争に参加していて、協力していた国が次々と降伏、日本も多くの犠牲者が出ていたのにもかかわらず、ポツダム宣言を受け入れなかったために原爆が投下された。ポツダム宣言を受け入れなかったのは、少しでも日本に有利な条件で講和条約を結びたかったのでしょう。この時に日本は兵士や民間人の命の事を何も考えていなかったのでしょうか。それまで日本が勝つために苦しい事、辛い事悲しい事をがまんして日本の勝利を信じていた大勢の人の命が一瞬にしてうばわれてしまった。

広島の原爆について調べていたら、一枚の写真をじっと見たまま動けなくなってしまった。お弁当箱の様な物が写っていて、横から「これは炭化したお弁当の写真だね。原爆が投下された時にこの子は、お弁当をかかえて亡くなってしまったんだね。きっとお母さんが心を込めて作ったから、この子もお弁当が大切だったんだね。」

夏休み中、母が仕事に行く時は私と妹にお弁当を母が用意してくれる。似たようなメニューが多く、あきてしまうと思っていた私は、その写真を見て涙が止まらなくなってしまった。

こんな悲惨な戦争は、もう二度と起こしてはいけない。そのため私達は唯一原爆を投下された国として、おそろしさや失う物の大きさ悲惨さをもっと世界に伝えていかなければなりません。日本も過去のあやまちをくり返してはいけないし、私も含めて若い方々も、もっと戦争について知るべきだと思います。

優秀賞

戦争をなくすために

渋川市立橘北小学校６年　　吉野　妃星

一九四五年八月六日午前八時一五分のヒロシマ、三日後の九日午前十一時二分のナガサキはそれぞれ真っ黒なキノコ雲におおわれた。ヒロシマには「リトルボーイ」、ナガサキには「ファットマン」という原爆が落とされた。そのことを知ったのは、今年の終戦記念日の八月一五日だった。その日、テレビから私と同じくらいの年の人が作文を読んでいる映像が流れていた。それまであまり興味のなかった原爆について知ってみたくなった。

そこで「ヒロシマ消えたかぞく」という本を読んだ。この本を読んで、ヒロシマに落とされた原爆により、鈴木六郎さん一家、家族六人の尊い命を消し去ったことが書かれていた。長男は妹を診療所に送り届けた後亡くなってしまった。次女、次男は自宅の焼け跡から白骨となり見つかった。長女は診療所に運ばれた後行方不明となり、父は救護所で亡くなってしまった。六人家族の母以外の家族が原爆で亡くなってしまい、その母は井戸に身を投げて亡くなった。私はたった一発の原爆で家族や家族の幸せがいっしゅんでうばわれてしまうんだと、原爆の恐ろしさを知った。

戦争について本やインターネットで調べたり、戦争を経験した人に話を聞いたりすることで、戦争の恐ろしさや今まで戦争でどのくらいの人が亡くなり、生活にどのような影響を及ぼしたのかを知った。また、私はなぜ戦争をするのか気になり原因を調べてみた。そこには資源・土地のうばい合い、異なる宗教同士の対立と書かれていた。今現在もウクライナとロシアが戦争を行っている理由も資源や土地のうばい合いということが分かった。戦争なんてせずに平和な世界が広がり、世界の人々がもっと平和に暮らしていけたらいいと強く思う。私の祖母も戦争経験者だ。時々昔の話をしてくれる。曽祖父が満州に行っていたこと。防空ごうにひ難したこと。東京から親せきの人がそかいしてきていたこと。

私は、日本ができる事を最大限に行っていけたらいいと思う。さらに国をこえて戦争の恐ろしさを伝え、戦争のない平和な世界にしていきたいと思った。私は二十万人以上の未来ある命をうばった原爆を許してはいけないと思う。唯一の被爆国である日本から原爆の恐ろしさを強くうったえ、この世界から原子爆弾をなくさなければいけないと思う。私は戦争を知らない。学校の授業で習うのみ。自分には関係ないことだと思っていた。だけど戦争について知る、関心を持つことが私にできる第一歩だと思う。そして、同じように戦争を知らない人達に同じことをくり返さないように伝えていくことが大切だと思う。

優秀賞

平和にするために

渋川市立橘北小学校６年　　山﨑　栞詩

平和とはなにか、それは争いがなく、おだやかな世の中、それが私の中の平和でした。しかし、「平和って、どんなこと？」という本を読んでから平和について、もう一度考えることにしました。

そして、あることに気が付きました。それは、平和は人によってちがうということです。人によってちがうということは少し考えればすぐに分かります。なのに分からなかったのは、平和とはこういうこと。というイメージがはなれないからだと私は思いました。そして、このイメージがはなれないからこそ、争いがおきてしまうのではないでしょうか。人は、自分を、みんなを、大きくいえば国を平和にするために争っているのだと私は思います。そのため、自分たちを平和にするために争い続けて、それが暴力となり、戦争に発展し、結果的にどっちも平和にならず、多くのぎせいがでてしまうという平和とはかけはなれたことになってしまうのです。

私は、平和になるためには世の中のみんなが平和について考え直すことが大切だと考えました。平和について考え直すことによって、平和にならない結末が平和な結末になるかもしれません。なので、自分の中の平和のイメージをはなし、新しい平和を考えることが大切だと考えます。

また、他の人の平和を聞き、認めることも大切だと私は思います。他の人の意見を取り入れ、平和になるために考え、努力することで、みんなからはなれない平和のイメージを新しい考えに変えることができるのではないでしょうか。

一人一人が平和について改めて考え直すことによって、イメージの平和が、本当の、人がきずつくことのない、みんなが幸せの平和をつくれるのではないでしょうか。

もう一度、自分の中の平和のイメージをはなして、平和について考え直すことが大切だと私は思います。

佳作

平和と戦争

渋川市立渋川北小学校６年　　神保　美空

私は、戦争の本（この世界の片隅に）を読んで、平和な世界に生まれて本当によかったなと思いました。この本を読んでいると、平和は、ふつうじゃないんだなと思います。なぜかというと、この本にでてくる小さい女の子が死んでしまうからです。さっきまでしゃべっていて、手もつないでいた子がいっしゅんで死んでしまいます。その子のとなりにいた女の人も、片手を失ってしまいました。こういう本などを読むと、昔の人、よくがんばったなと思います。

昔は、平和がふつうだと思っていました。毎日笑っていられたり、友達と遊んだり、ゆっくりだらだらしたりできるのがふつうだと昔は思っていたけど、今は、まったくそんなことを思わなくなりました。たぶん、今でも私が知らない所で戦争していると思います。今の日本は、戦争になっていないけど、また、戦争がおこったら、こわいと思いました。

正直なぜ戦争をするのか分かりません。国のえらい人が決めて、一切関係のない人々がまきこまれて、死んでしまい、その家族が悲しむと思わないのかなと疑問に思いました。それに、その国のえらい人が戦争をやると決めたのに、一生けん命戦わないで、一切関係のない人たちに、まかせるのも、意味が分かりません。戦争をやると決めたなら責任をもって、自分の国の人々を守ってほしいなと思いました。

どうしたら戦争にならないか考えてみました。私は、国どうし、仲良くしてけんかのないようにするか、最低限のことしかはなさずに、けんかのないようにすれば戦争がなくなると思います。でも、どうしても争いごとが起きると思います。そしたら、みんな、広い心を持つことが大事だと思います。みんな、広い心を持てば、「しょうがない」や「許してあげよう」などの言葉が増えると思うからです。みんな、思うことは人それぞれちがうと思いますが、広い心を心がければ少しでも戦争をやろうと思わなくなるかなと思います。私も、広い心を心がけて、できるだけ、みんなとけんかにならないようにしたいなと思いました。

最後に、私は戦争になってほしくありません。もちろん日本は絶対なってほしくないし、日本以外の国もなってほしくありません。戦争は、人や動物が苦しむし、道や建物が燃えたり、一つもいいことがありません。なので、これからも戦争をせず、戦争で苦しまないでみんな笑顔で楽しく暮らせる世界がいいです。

佳作

花火白菊に込められた思い

渋川市立渋川南小学校６年　　藤澤　良仁

僕はこれまで、長岡花火を見た事があり、六年生の修学旅行で新潟県の長岡空しゅうで亡くなられた方への慰霊という意味が込められているという事を知り、中でも空しゅうが始まった八月一日午後十時半と長岡花火大会の八月二日、三日の一番最初に三発打ち上げられる「白菊」と言う花火が特別な物であることを知った。これまで、ただ花火を見ても「あまりのすごさに心を打たれた。」という感想だったが、この花火にどんな思いをこめて打ち上げているのかをより知りたくて、長岡花火をきっかけに長岡で起こった空しゅうについて本や戦災資料館に行って調べてみようと思った。

実際に資料館に行って見て来た事、学んだ事、感じた事は、日本の木造家屋を研究して水では簡単に消火することが不可能なばく弾を使用したことにより、沢山の被害が出たことを学びました。戦争とは兵士だけでなく、多くの一般市民もまき込み多数の犠牲者を出す物であることも学んで来ました。本当は、戦争に行かせたくない、行きたくないと強く思っていても家族の安心のため、国の安全のためと思って戦地へ行って亡くなった人も沢山いた事が分かりました。それは、言葉にできないくらいショックを受けました。過去、日本と長岡でこんなことが起こっていたとは、今の様子からは想像しがたく感じます。空しゅうにより、体に火がついたまま水を求め、川で亡くなっていった方々、体が黒くこげ身元不明のままの方々も沢山おられ、どんなに熱く苦しかっただろうかと思うと、悲しさで胸が一ぱいになった。もし自分の家族がそのようになってしまったら、と思うと悲さんと言う言葉では言い表すことが出来ないと思った。今回は、長岡花火をきっかけに長岡空しゅうについて調べたが、長岡だけではなく、全国で空しゅうにより多数の犠牲者が出ていた事も、調べていく中で知った。

また、長岡には空しゅうのみでなく、模擬原子ばく弾も落とされ四人の犠牲者が出たとの事だった。模擬原ばくの被害者い族からの体験談も聞いたが、畑仕事をしていた弟達の体がばく弾によりバラバラになったとの話をされており、とてつもないしょうげきだったのだと思った。

戦災資料館に行くまでは、ニュースで流れる戦争の様子を見て、「こんなにひどい状態になるなんて国同士が争ってはいけない。」と思っていたが、実際に資料を見ることにより、より戦争はいけないものだという思いを強く持ちました。戦争を二度としないように歴史を学び、くり返さないようにしたいと心にちかった。この先も、長岡花火を見るたびにこの決意を忘れないようにしたい。

佳作

平和について伝えたいこと

渋川市立渋川南小学校６年　　高橋　郁帆

「ロシア」「ウクライナ」「戦争」…ニュースや新聞でこれらの言葉を聞かない日はありません。映像や記事の写真を見ても、笑っている人はいません。みんな暗い表情で、つかれているように見えます。

国と国が戦争を始めるきっかけは何なのでしょう。国民が「戦争をしたい。」と言ったのでしょうか。私はちがうと思います。

戦いが始まって、戦いに巻きこまれて、楽しい毎日がなくなってしまえば国民はつらいと思います。だれかがケガをしたり、亡くなったりすることもつらいことだと思います。家がなければゆっくり食事をしたり、ねたりするところも無くなってしまうし、病院がなければ救える命も救えなくなってしまいます。つらいことばかりです。

私は今十二才です。自分ではもう大きくなったと思っていますが、両親は私をまだ子どもだといいます。もし戦いが私の周りで起きれば、子どもの私もたくさんの負担を抱えながら生きていかなくてはならなくなります。同じ家で暮らす年老いた祖父も、やっと保育園に通いだしたいとこの小さな赤ちゃんも、私と同じようにたくさんの負担を抱えることになります。たくさんの負担のせいで、何も悪いことをしていない私の大切な人たちが亡くなってしまったら…私はとても悲しいです。

人には心があります。戦いを通してきずついた心は何をしても元通りにはならないと思います。体の見える部分のきずは、ちりょうをすれば少しはなおるかもしれませんが、心のきずのなおしかたは私にはどうしても思いつきません。家族と会えない、家族が亡くなってしまった…そのきずは一生なおらないと思います。

「戦争はよくない」ということを私は伝えたいです。私がここまで話してきたことで戦争がよくないということが分かったと思います。いいことが一つもない「戦争。」人を苦しませ、悲しませ、いやな気持ちにさせることしかできない「戦争。」一生、この世界でやらないでほしい。この地球に住むみんなの願いを実現できるように、平和な未来を作れるように、私はこれからも平和をうったえていきたいと思います。

十二才の私にできること。友達と一しょにいればたくさん話すし、たまに強い言い方になってケンカになることもあります。でも、絶対にばくだんやじゅうを出すことはありません。ケンカになっても、友達は大切だし、友達にずっと元気でいてほしいし、悲しい思いをしてほしくないからです。ケガもしてほしくないし、友達がイヤな思いをしていることで友達の友達や友達の家族にもいやな思いをしてほしくないからです。理解し合うこと、みんなだれかの大切な人であるということを自分から発信できる人でいたいと思います。戦いのない世界を私の手で作っていきます。

佳作

別の観点

渋川市立古巻小学校６年　　飯塚　詩月

ウクライナとロシアは毎日戦争が起きています。私はなぜこの戦争が起きたのかが気になりました。調べてみた所、元々ウクライナとロシアは仲が良かったのですが、”ウクライナがアメリカに付こうとして、ロシアがウクライナを侵攻した”ということでした。ニュースなどではウクライナを報道、支援していますが、別の方から見てみると「ロシアはわるくないのかも」と考えました。

極端に言うと、ロシアはウクライナに裏切られたわけだからおこるのは仕方ないことかなとも感じます。でもだからと言ってウクライナに攻撃するのはよくないことだし、悪くない国民にまで被害が及びます。なのでどちらが良いとか、悪いっていうのが決められないと思います。

ニュースなどではウクライナの被害などを報道しているけど、もしかしたらロシアも同じ状況かもしれないと考えました。もしウクライナが悪かったらその事を日本は報道するのでしょうか。私はどちらも悪くはなく、そしてまた”どちらが悪い”と決める事ではない。と思いました。ロシアは理由があって攻撃をしたので、悪くは無いしウクライナもされたから仕返しをしているだけです。身近な事で例えてみると、どちらも悪いように見えません。

私は戦争を今まで”自分には関係ない”と考えていましたが、ロシアとウクライナの戦争が起きて改めて本当に起きる事なんだと感じました。それでも私はずっとウクライナの方からしか戦争を見れていなかったのでこの作文では客観的にみて書きました。そうすると新しい発見ができて私はどちらが悪いと決めることではないのだと分かりました。

これも私の考えだけだけど、すこし新しい感覚でした。

今までの戦争でも、もしかしたらかたよったことを覚えていたかもしれません。また改めて考えてみようと思いました。

佳作

世界平和について私が思うこと

渋川市立古巻小学校６年　　郷　愛来

私は、虐待をされている子供への影響について、自分と同じ位の年齢や、小さい子が、早くに命を落としたり、のびのびと育つことが出来ないのは、可哀想だと思いました。罪もなく、力もぶきも持たない子供達にトラウマを植えつけたり、精神的苦つうを与え、しはいしようとしたり、大人のつごうに子供を巻きこんでいるところが戦争と同じくらい残こくだと感じたのでインターネットで調べてみました。

児童虐待とは、十八才未満の子供に行うもので、殴る・蹴る等の身体的虐待や性的虐待だけでなく、心理的虐待やネグレクトも含まれるそうです。これらの特徴をあげてみます。身体的虐待の特徴は、殴る・蹴る・長時間の正座など、体に害を与える虐待です。心理的虐待の特徴は、兄弟間での差別的な扱い・言葉による脅し・無視など心に害を与える虐待です。ネグレクトの特徴は、食事を与えない・ひどく不潔にするなどの健康に害を与える虐待です。これらの中で最も多い虐待は、心理的虐待なんだそうです。どうしてこんなひどいことができるのかと思いました。

次に虐待の影響についてです。子供が虐待を受けながら育った場合、人格形成に多大なる影響を受けるそうです。その影響とは、強い恐怖心を持ち、他人を信じられず、何か悪いことがあると「自分のせいだ」と強い罪悪感を感じて育ってしまいます。これらの心理的な問題から夜尿症や自殺・自殺未遂などの行為や症状を引きおこすことがあるそうです。これはとても恐ろしく、とてもひどい行為だと私は思いました。

児童虐待は、レッキとした犯罪です。虐待による死亡者数は、増加けいこうにあります。なぜ将来を背負う子供達が多く辛い目にあうのでしょう。子供のあたり前やふつうは、親がつくります。子供とはいえ、一つの大切な命です。人権を尊重し、思いやりを持って、少しずつ平和な世界になればいいと思いました。私はまだ 12 才と未熟で世界に平和をなげかけるという大きな事は、私にはまだ難しいです。が、小さな思いやりがやがて世界平和に育つような、バタフライ効果を期待し、今できるかぎりの思いやりを身近な人へ届けたいと思います。

佳作

世界はひとつ

渋川市立豊秋小学校６年　　水江　智哉

ぼくは今年Ｇ７サミットが行われた様子をテレビで見ました。多くの国の首脳が原爆資料館を視察し、慰霊碑にけん花して下さり本当に歴史的なことなのではないかと思った。そして広島で見たこと、聞いたことを今後の世界平和へつなげて欲しいなと心の底から思いました。

ぼくが一番心に残ったのは、ゼレンスキー大統領の会見の中で、「人影の石が資料館でしか見ることができなくなるように。」というメッセージでした。たしかに人影の石が世界に何か所もできてしまったら、とても悲しいことです。本当にそのとおりだと思ったからです。

今の高性能な核爆弾なら、きっと世界中が破めつしてしまうのではないか。最新鋭の兵器は昔からくらべると、とても殺傷力や破かい力が上がり、すさまじいものがある。そういった兵器が永久に使われてほしくない。人が住めなくなった地球の姿を、ぼくは想像したくありません。

世界中が平和になってほしいと考えると、ぼくは思いやりの心が大切なのではないかと考えました。よく戦争は話あいで解決などと聞きますが、ぼくは話あうことはあたりまえのことだと思っています。どんな事で戦争が起きるのか、それは民族や宗教、貴重な資源や領土問題などさまざまな問題があげられます。どちらも自分に有利になることしか頭にないし、折れないので話なんかまとまるはずがない。

どうしたら、世界のみんなが笑顔で過ごせるようになるのか、それはたくさんある身近な問題に気づいて、みんなの力をあわせ解決し、だれもが平等で取り残されない社会をつくったら良いのではないかと考えました。行動力というのも必要だと思った。

そして今回、ゼレンスキー大統領のメッセージをきっかけに、ぼくはかつてあった戦争のことを調べて学びました。おかげでぼくの知らなかったことをたくさん知ることができ、良い経験となりました。たとえば沖縄戦で「軍の命令だ。」と言われ、自分の子供三人も殺し自殺した人がいるという話や、原爆のせいで被爆し、差別やいじめをうけた話など、どれも胸がしめつけられる思いで、その残こくさは想像を絶するものでした。ぼくはなみだがポロリポロリと頬を伝っていくのがわかりました。

もう二度とこんな戦争はおきてほしくない。多くの命、そして楽しかった生活をうばう戦争の悲さんさや平和の大切さはしっかり語りついでいかなければならないと思いました。

世界は一つ。一枚岩となり、お互いに協力し仲良くなってほしい。ぼくは世界中の人の幸せと健康を願いたい。

佳作

「みんな友達」

渋川市立豊秋小学校６年　　狩野　凜

私は、この夏休みで初めて地域共生施設の納涼祭のイベントにボランティアとして参加させていただきました。施設職員の方々や看護学生、大学生や地域の高齢者の方々などがイベントを企画し、私もその準備をお手伝いさせていただきました。

私は初め、知らない人や初めてのボランティア活動でとても緊張していましたが、一緒にボランティアに参加した方々がとても親切で、皆と同じ目的で、同じ目標をもち協力することで、いつの間にか打ち解けることができていました。その人たちの中には、不登校や引きこもりの方々もいましたが、そんなことは全く関係なく、皆が協力し助け合っていて、気づけば皆が笑顔でした。私はなんだかとても温かい気持ちになりました。イベント中はとても暑かったけれど、誰一人いやな顔をする人なく皆が助け合いながら進めることができました。

イベントには小さな子どもがたくさん訪れていました。中には外国人の親子連れもいました。私はイベントに来てくれた皆が笑顔になってくれたらいいなという思いでがんばりました。小さな子どもと関わる時は子どもの目線に合わせて話をしたり、高齢者と関わる時は少し大きな声で話をするように心がけたりしました。子どもたちからは「楽しかったー」や「ありがとう」という言葉が聞かれ、私自身とても温かい気持ちになりました。

私はそれらの経験から「友達」とは年齢や性、こくせきなどは全然関係ないのではないかと感じました。人と人が協力したり、支え合ったり、助け合っていく事で「友達」はつながっていくのだと思いました。

私はボランティア活動に参加して、暑くて大変だったけれど皆の楽しそうな笑顔が見れて、参加して良かったと心から感じました。また、色々な人と関われたことでたくさんのことを教わることができて良かったです。また機会があればボランティア活動に参加していきたいと思います。

イベントの後、その施設について少し聞いてみました。その施設は世代に関係なく関わりをもてる施設であり不登校や引きこもりの方々、ボランティアの人が原動力となって運営されている福祉施設だということを知りました。施設内の棚などはほとんどが手作りで、おもちゃなどは全て寄付だそうです。全国から多くの寄付が毎日のように送られてきていることを知り、おどろきました。家庭で使わない割りばしやオムツ、ビニール袋などを入れる場所があり、施設の利用者がそれを使わせてもらったり、逆に寄付として持ち寄ることで、支え合いの精神が生まれるとのことでした。私は「支え合う」と言葉にすることは簡単だけど、どう行動にうつすべきなのかわからなかったけれど、こうした小さな行動一つ一つが「支え合う」ことにつながっていくのだと感じました。こうした支え合いが、人と人のつがなりを生んでいくことを知り、私にできることは小さなことかもしれないけど、見つけて、こうけんしていきたいと感じました。そんな支え合いがもっと広く広まって皆が友達のように支え合っていけるようになってほしいと思いました。

佳作

「戦争のない平和な世の中に」

渋川市立三原田小学校６年　　岡﨑　紫保

私は、「ガラスのうさぎ」という本を参考にし、平和について考えました。

ガラスのうさぎは、戦争の話で、家族を何人か失ってしまいます。でも、今の時代の日本では、戦争って何？と思ってしまうほど知らない人が沢山います。私は、幼い時から親によくおじいさんの実体験の話をされていたので、みんな知っているのが当たり前なのかと思っていました。だんだん戦争を体験したことのある人は減ってきています。二度とこんな悲惨な戦争はおこってはいけないと思うので、こうやって本などで伝えるのはとてもよいと思います。ずっと私は、体が熱いと、川とかに入ってはいけないのは、体との温度差が激しすぎるからだと思っていたのですが、ガラスのうさぎを読んだところ、そうではなく、川自体が熱く、熱湯になっているからだそうです。熱い川なんて見たこともさわったこともないので、本当にびっくりしました。そして、飛びこんだ人の多くは死んでしまいます。でも、こんなことが起こってしまうのは、全て戦争のせいです。どんな理由があったとしても､関係のない国民まで巻きこんでまで戦争をするのはおかしいなと思います。今、ロシアとウクライナが戦争をしていますが、私は早くやめてほしいと思っています。日本は、非核三原則というものがありますが、他の国には、そのようなものはあまりないと思います。もう戦争を起こしたくないので、全ての国に非核三原則についてよく考えてほしいと思います。北朝鮮が弾道ミサイルをよく発射していますが、本当にやめてほしいです。誰も得はしないし、弾道ミサイルの材料費ももったいないし、良いことはあまりないと思います。しかも、世界中には食べ物を食べられない人が沢山いるのに、弾道ミサイルにお金をかけるのは間違っていると思います。ガラスのうさぎでは、昔と今のお金の価値がかなり違うことがわかりました。昔の千円の価値は、家が建てられるくらいだったそうです。今じゃ千円では家が建てられないので、これはすごくおどろきでした。時代によって、お金の価値は違っていますが、北朝鮮のように、人をおどしたり、国民の生活をおびやかすようなお金の使い方をするのではなく、国民や、世界中の人々が幸せになれるようなお金の使い方をみんなでできるようになってほしいと思います。争いをせず、全ての国が仲良く助け合えることができれば一番それがよいですが、なかなかそれはできない国もあります。何が正解で何が間違っているのかは人によって思っていることが違うから争いが起こってしまうんじゃないかと思っています。

このように、私は平和な世の中にするためには、戦争のおそろしさをよく知り、できるだけ多くの人に戦争を起こしてはいけないということをよく伝えることだと思っています。戦争のない平和な世の中になってほしいです。

佳作

世界は友達

渋川市立橘小学校６年　　石田　瑠愛

私は今まで、「戦争」や「平和」について今まで一度も考えたことがありませんでした。

社会の授業で、広島原爆について先生が少し話してくれました。私がこの時ふと思ったのは、「この世界に平和はあるのだろうか。」と思いました。けっこう前に、戦争のことでよくニュースになっていた時がありました。その時の自分は何も思っていなかったけど、今考えてみたら、そのニュースを見た自分が何も思わなかったのがとても不思議に思いました。私は、戦争のことも何も知らなかったので調べることにしました。ですが調べることがだんだん怖くなってしまったのでけっきょく調べずに何も知らないまま終わってしまいました。でも一つ分かったことがありました。何かと言うと、戦争は国同士がケンカをして、それがひどくなってしまうと戦争になってしまうとおじいちゃんから聞きました。その時、おじいちゃんが「友達とケンカするのと一緒だよ。」と言っていました。この時、私は「確かに。」と思いました。「平和を手に入れるのは意外と簡単かもしれないけど、その平和を守り続けること。」が難しいと改めて思いました。昔の人が、どれだけ大変で、苦しかったかは分からないですが、おじいちゃんの話で、少しは分かった気がしました。そのために「平和」をつくるために、人種差別や核兵器についてなどをなるべく少なくし、みんなが平和で生きれる社会にしたいなと私は思いました。みんな一人ひとりが協力し、争いのない世界、国にしたいです。特に、みんなが持っている一人ひとりの個性や性格を大事にし、いじめやかげ口が大きいひ害にならず、みんな安心して生きていけるような社会にしたいです。

そのために、今、自分ができることをちゃんとし、みんなに分かってもらえそうな行動ができるようになりたいです。人をいじったり、いじわるしたり、相手がいない所でわる口を言わないようにしようと思いました。

佳作

平和とは

渋川市立橘小学校６年　　須田　莉央奈

この前、テレビのニュースを見ていたら、今年で終戦七十八年目をむかえると知りました。戦争のことは、昔のＤＶＤの「ほたるの墓」やテレビで見たりするくらいでくわしくは、分かりません。

私のしんせきの人など戦争に行った人がいません。国と国の戦いに、武器を持って人を殺し合うというとてもおそろしいことなんだと思いました。

今、日本では戦争はないけれど、世界のあちらこちらでは、空爆などで、たくさんの命がぎせいになっていることを知りました。もし日本が他の国をこうげきし、日本がねらわれたらと考えたら、とてもこわいです。

私は、もう亡くなってしまったひいおばあちゃんから聞いた戦争後のつらかった話を少し覚えています。日本という国に命をささげることが素晴らしい、大切な人のために戦う、仲間とともに戦う。私には分からないけれど、そのときはそんなことを、本気で考えていた人たちがいたと聞きました。

なぜ人は争わなければいけなかったのか、その当時は相手の国が悪い国だと教えられ、戦い方を教育され自由な考えや行動はできなかった時代だったことを知り、とてもこわく思いました。

私は今、戦争を知らない子どもに生まれ今までも命のきけんなどしることもなく生活しています。しかし世界中の人達がみんな幸せに暮らせてはいません。毎日生きるために働いている子供もいます。食べる物もなく生きることだけで精いっぱいです。私は好きなものを食べ安全な家の中でテレビやゲームなどを楽しみ毎日楽しく学校も行っています。そしていろいろな物を買えることもできます。私にはこの生活があたりまえですが今の世界のたくさんのところで生きるために必死な人達がいると思います。

戦争はいけないことだということは、世界中の誰もがわかっている事です。でも戦争をすることをのぞむ人がいる限り戦争はぜったいになくなりません。私は戦争の本当のこわさをしりません。原爆のこともです。その当時日本は、原爆の大きな被害で戦争を止めたそうです。日本は唯一原爆を落とされた国として戦争は絶対してはいけないと主張してほしいです。世界中の人が協力しあえば「戦争はなくなるのかな？」とか思います。

これから私は、戦争と平和についてもっと勉強したいと思います。絶対に戦争はしてはいけないとこの作文を書いてあらためて思いました。戦争をすることなく世界が平和に、解決してほしいです。